
当院透析室における感染性廃棄物の実状

保坂るり子、松岡淳子、近江 薫
宮形 滋^{*}、原田 忠^{*}、木暮輝明^{*}
中通総合病院 血液浄化療法部、同 泌尿器科^{*}

The real condition of the infection waste in this House dialysis room

Ruriko Hosaka , Junko Matsuoka , Kaoru Oumi ,
Sigeru Miyagata ^{*}, Tadashi Harada ^{*}, Teruaki Kigure ^{*}
Nakadori General Hospital blood purification medical treatment part ,
urology department ^{*}

<はじめに>

医療機関から排出される医療廃棄物は、医療機関とマニフェスト制度契約を結んでいる委託業者によって処理されており、その処理費用は病院負担となる。特に、感染性廃棄物は費用が高く、透析室から大量に排出される感染性廃棄物を減少させることは、病院の経費削減への貢献となる。

今回、当院透析室の感染性廃棄物の減少に向け、実状をまとめた。

<廃棄物の分類と制度について>

1、廃棄物の分類

廃棄物は、「産業廃棄物」と「一般廃棄物」に大きく分類される。「産業廃棄物」には、事業活動で発生した、燃え殻、汚泥、廃油なども含まれ、医療機関から排出される（感染性廃棄物）は「特別管理産業廃棄物」になる。これらの産業廃棄物以外のものが「一般廃棄物」となる（図1）。

2、マニフェスト制度について

医療機関は、感染性廃棄物を含む産業廃棄物の処理を他人に委託（市町村への委託を除く）して行う場合、廃棄物の種類、量、性状、取り扱い方法を記載したマニフェスト（産業廃棄物管理票）を交付する。そして、産業廃棄物が適正に処理されたことを、処理業者から返送されるマニフェストにより確認する。

<当院透析室の感染性廃棄物の実状>

1、透析業務中に出るゴミについて

①穿刺は2人体制で行うが、穿刺者は、アイシールド、マスク、エプロン、手袋を装着し穿刺

する。アイシールド、マスクは血液が付着した時に交換し、エプロン、手袋は一患者一交換にしている（図2）。

②穿刺時には、穿刺カートを押しながらまわる。また各ベッドサイドには袋をかけたバケツを置いている。穿刺カートの袋には、手袋・シリンジ・針の袋類を捨て、バケツには、穿刺後の手袋、エプロン、開始セットの入っていたトレイを捨てている（図3）。

③終了時には、ベッドサイドのバケツにダイアライザー、回路、シート、ガーゼ、シリンジ、終了セットの入ったトレイが捨てられる（図4）。

④図4のバケツのゴミは袋ごと、汚物室にある段ボール（非鋭利な感染性廃棄物用）に重ねて入れていく。この時のビニール袋が、かなりのかさばりの原因になっている（図5）。

2、平成20年度の感染性廃棄物排出量実績について

平成20年度上半期の段ボールとポリ容器の排出量実績から、透析室が病院に占める割合を計算したものを示す。4月～6月の月平均で見ると、金額で21.6%、総量で24.7%と透析室が大きな割合を占めていることが分かる。7月～9月の月平均では、2%位の減少がみられるが、これは6月に穿刺カートを導入し、それまでよりはゴミが分別されたことが影響していると予測される（図6）。

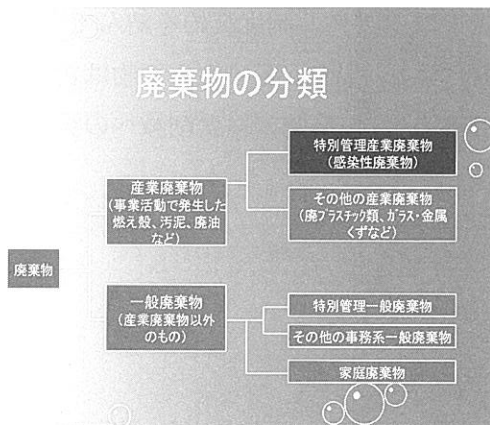


図1. 廃棄物の分類図

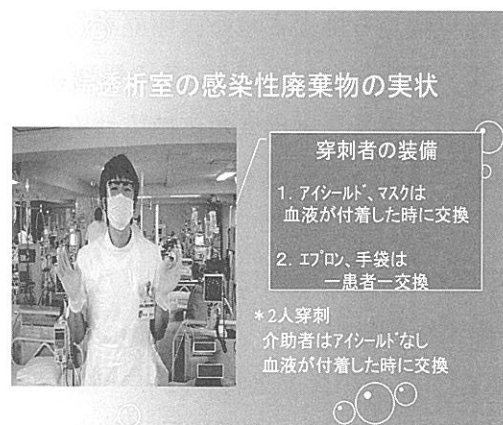


図2. 穿刺時の穿刺者の装備



図3. 穿刺時に出るゴミ



図4. 終了時に出るゴミ



図5. 汚物室の様子

排出量実績

平成 20 年度	段ボール 60ℓ ¥1,000		ポリ容器 50ℓ ¥1,500		金額(円)		総量(ℓ)	
	透析	病院	透析	病院	透析	病院	透析	病院
4月～ 6月の 月平均	108 個	369 個	2 個	28 個	¥112,100 21.6%	¥518,866	6562ℓ 24.7%	26610ℓ
6月に穿刺カート導入していることが影響している？								
7月～ 9月の 月平均	85 個	325 個	1 個	26 個	¥88,733 19.4%	¥457,166	5200ℓ 22.4%	23240ℓ

図6. 平成20年度感染性廃棄物排出量実績

<まとめ>

当院透析室の感染性廃棄物の実状から今後の課題をまとめると以下のことが挙げられる。

終了時セットの入っているトレイなど、血液などが付着していないものも一緒に捨てられていることから、ベッドサイドでゴミの分別がしやすい工夫をし、意識して分別をしていく必要がある。また、バケツにかけてあるビニール袋がかさばる原因となっていることや、ベッドサイドにバケツがあることで、産業廃棄物や一般ゴミが捨てられやすい状況にあることから、バケツを使用しない方法での終了時の回収業務や看護助手の協力を得てゴミの分別を行うことなどを検討し、効率化を図っていきたい。

<おわりに>

透析室における感染性廃棄物の減少は、病院の経費削減への積極的参画となる。今後も様々な視点での経費削減を検討していきたい。

参 考 文 献

- 1) 鈴木正司、大平整爾：透析医療と医療廃棄物—その処理の現状と今後の取り組み—、臨床透析 vol.24 no.5：2008 7
- 2) 宮形 滋：秋田県における透析療法廃棄物処理の実態、透析医療における医療廃棄物の諸問題：2000年